

研究室から

大学は
いま

年、経済・産業構造がら、ストレスが高いが変化する中で、仕事やといわれています。そ職業生活に関する強いうした状態は、バーン・しかじストレスは、現在、看護職の皆様が不安、悩み、ストレスアウトや離職につながりました。また、患者に対するケイ側面ばかりではありませんが、ストレスの中成長する、自分の強

れる」ことから、ストレスの低減を図る研究のポジティブな側面にが多數なされていま着目する必要があるのではないか。どうでしょうか。

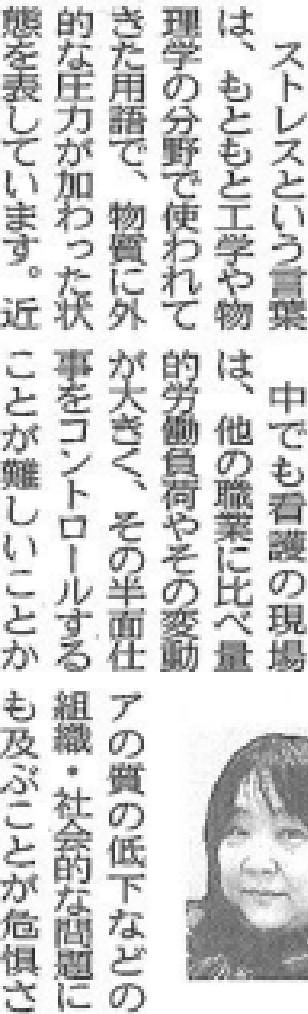
ストレス、成長のきつかけに

割合が60%を超えてい
ます。

中でも看護の現場

は、もともと人間や物は、他の職業に比べ量的労働負荷やその変動

せん。私が、インタビューやせた「ただいたくだり」といふ皆様看護師の中には、ストレレスの中、「成長できかしたら成長するわかった」「強くなれた」とかけを与えてくれるアの質の低下などの語っている人もいました。かもしだれないと、思つていただけだと幸いです。



ストレスという言葉は、もともと人間や物は、他の職業に比べ量的労働負荷やその変動

が大きめ、その半面仕事のコントロールする組織・社会的な問題に、感を表しています。近ことが難しいことも及ぶことが危惧され、ストレスフルな現代